

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 福島 秀治
 (コード番号：8732 東証第一部)
 問合せ先 経営管理部長 宇留野 真澄
 (TEL. 03-4540-3804)

2021年10月次 月次概況（速報）のお知らせ

2021年10月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年月	2021年3月期											
	2020年									2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	407	303	318	282	309	310	273	355	495	413	452	591
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	82,072	92,851	106,893	75,910	85,460	82,287	60,129	75,348	71,190	66,894	71,453	97,402
外国為替取引口座数 (単位：口座)	340,605	340,735	340,825	340,830	340,840	340,768	341,218	341,138	341,086	341,521	341,690	342,122
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,460	62,004	61,807	62,331	62,751	65,155	62,104	61,812	61,175	60,590	59,575	59,081
一般顧客	60,227	59,654	59,267	60,022	60,364	63,044	60,121	59,849	59,365	58,733	57,731	57,346
金融法人（BtoB）	2,232	2,350	2,539	2,309	2,386	2,111	1,982	1,963	1,809	1,856	1,843	1,734
マネパカード口座数 (単位：口座)	162,828	163,034	163,058	163,086	163,138	163,159	163,034	162,996	162,802	162,492	162,309	161,921

年月	2022年3月期											
	2021年									2022年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	445	403	430	395	387	470	430					
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	72,253	82,478	73,411	92,739	76,532	78,411	90,593					
外国為替取引口座数 (単位：口座)	342,801	343,397	343,817	344,134	344,314	344,522	344,755					
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	58,635	56,276	56,581	56,671	56,468	56,284	55,503					
一般顧客	57,068	54,786	54,965	55,027	55,065	54,825	54,090					
金融法人（BtoB）	1,567	1,489	1,616	1,644	1,403	1,459	1,412					
マネパカード口座数 (単位：口座)	161,712	161,526	161,301	161,091	160,964	160,800	160,701					

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 2011年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとBtoB取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。
5. 2020年7月から2021年3月までの「営業収益」には連結子会社のコインエージ株式会社の数値が含まれております。なお、同社は2021年3月31日をもって暗号資産交換業を廃業し解散しております。

<10月次の概況>

10月の外国為替相場は、米ドル／円については、1ドル＝111円台前半で取引が始まり、4日に米債務上限問題を巡る動向が嫌気されたことにより110円台後半の安値を付けました。8日発表の米9月非農業部門雇用者数は市場予想を大きく下回る結果となったものの、失業率が予想以上に改善されたことや、15日には米9月小売売上高が市場予想に反してプラスの結果となり114円台半ばまで上昇しました。その後、18日に中国の7～9月期のGDPや9月鉱工業生産が市場予想を下回った結果を受け中国経済の先行き不透明感が漂い、19日には113円台後半まで下落しましたが、米金利が上昇に転じると20日に2018年12月以来の高値となる一時114円台後半まで上昇しました。しかし、その後は失速し22日にはFOMCのパウエルFRB議長が早期利上げを否定したことで、米長期金利が大きく低下し113円台半ばまで下落しました。その後は一時114円台前半まで回復するも、28日には米7～9月期GDPが市場予想を大きく下回る結果となり一時113円台前半まで下落、113円台後半で月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨については、米ドル／円と同様に概ね円安傾向での推移となりました。外国為替相場の変動率は、米／ドル円の1日の平均値幅が米国大統領選挙のあった昨年11月以来の水準の0.654円（前月は0.545円）となるなど、全体としては低調な水準であった前月から大きく回復しました。

このような状況の中、パートナーズFXnanoの米ドル／円において、1回当りの取引数量5万ドルまで原則24時間スプレッド0.0銭（売買同値）、18時00分～21時00分の時間帯に限り1回当りの取引数量20万ドルまでスプレッド0.0銭（売買同値）とする当社独自のキャンペーンを続行しております。また、「約定力100%」のパートナーズFXの米ドル／円において、18時00分～21時00分の時間帯に限りスプレッドを0.3銭から0.2銭に縮小するキャンペーンを実施しております。これらの施策が奏功し、外国為替取引高は、米ドル／円を中心に増加し前月比16%増加の905億通貨単位となりました。営業収益は、トレーディング損益が通貨単位当たりの収益性が相対的に低い米ドル／円を中心に予想どおりに増加したものの全体としては若干の減少となり、特に前月に大きく増加したシステム関連売上高の反動減から前月比8%減少の430百万円となりました。また、外国為替取引預り証拠金は一般顧客分と金融法人分が共に減少となり、全体では781百万円減少の55,503百万円となりました。

以 上